

〔個人主義(△枠)の特徴〕:

- * 即ち、貞①のプロセス、〔さうありたい自己(△枠)⇒手本(C・C')⇒願望(D1)⇒言葉(F:願望的諸概念)⇒型(E)にしたがつた行動⇒模倣(D2)⇒それに辻褄を合はせようとする(生甲斐・居心地の良さ・自己満足D3)〕を、個人主義(△枠)は、以下プロセスに塗り替へたに過ぎない。
- * 近代とは手本喪失。「神の死(絶対全體C喪失)」即ち「神意(宿命D1)喪失」⇒神の代はりに、自己宿命(D1)演出⇒自己主張(自己表現D2)・自由意思(人間いかに生くべき:D2)⇒自己完成(自己主人公C'化・自己C'全體化・自己C'絶対化)⇒自己満足・自己陶酔・自己證明と言ふ似非實在感(D3)。
- * オセローの自己劇化、即ち「自分を滅ぼすものの正體(死・全體)をはつきり見きはめ、その上に自分を押しあげ、壯大に祀りあげること、この強烈な個人主義のうちにエリオットはストイズムを見た」(『人間・この劇的なるもの』全三P555)。尚、當文は「その上(宿命の上)に自分を押しあげ(自己宿命演出)、壯大に祀りあげること」とも言ひ換へられる。

